

アジアにおける知的障がい者スポーツ普及事業

NPO 法人 静岡 FID サッカー連盟

〒420-0841 静岡県静岡市葵区上足洗四丁目3-22

助成事業の概要

韓国交流では、静岡県の特別支援学校のサッカー部の中から地域が片寄らないように15名を選出し、仁川広域市知的障がい者選抜との交流を静岡市で5月に行った。今年度は、1泊を共にする中で、選手間、指導者間で一緒に話す機会を多く設け、アンケート調査等も行い、両国の障がい者本人、及び支援者の考えをまとめ、互いの団体で共有するとともに、今後の事業に生かせるように、関係団体への配布を行った。障がい者のスポーツ促進には、動機付けがとても大切であることを参加者、支援者の話から確認した。

台湾では、知的障がい者の集団スポーツ参加が少ないことから、10月に台北市の台北市立大学で、台北啓智特別支援学校等の3校から、参加者を募り、静岡のプロサッカー普及部のコーチに指導を依頼し、サッカー教室を行った。

事業の成果

【韓国・仁川広域市との交流での成果】

若い選手は、スポーツをする機会に恵まれつつあることが確認され、サッカーが好きで生涯学習としても継続していきたいと考えていることが確認できた。今回、通訳ボランティアを4人ほど依頼することで、互いの生活や気持ちについて話し合いができた。サッカー交流に関しても、サッカー教室を開催したり、両チームが交わるごちゃまぜサッカーを行ったりすることで、多くの交流機会を設定することができた。その結果、交流につい

て、楽しいと感じている参加者が多く、積極的に挨拶をかわす、ボディランゲージで意思疎通を図るなどの姿勢がみられ、日ごろ弱いとされる主体性、積極性などに顕著な伸びが見られた。

支援者については、両地域ともこの交流が、スポーツ継続の意欲へつながっていることを認識しており、目的を持つことの大切さを確認した。知的障がい者のスポーツ促進については、支援者の広がりや急務だと考えており、学校、福祉関係者更には、企業等への理解及び参加をアピールしていく必要があることが分かった。

【台湾での知的障がい者のサッカー教室での成果】

台湾の知的障がい者の中では、前調査で個人スポーツに参加している者が多いことが分かっていたが、今回台湾政府局教育部の協力で台北市の特別支援教育を実施している3校から30名の申し込みがあった。実際の参加者は28名であったが、皆が楽しいと感じていること、保護者も満足していたことは大きな成果である。また台北市の特別支援教育に関わる職員が、スポーツとりわけサッカーの可能性を感じたことが大きな成果であり、今後の学校の指導に期待ができる。また台北市立大学の学生30人がボランティアとして参加し、交流及びボランティアに興味を持ち、このような教室への協力に好感触を得た。このことによって、今後の運営等にボランティアの可能性を示すことができた。

■ 成果の広報・公表

仁川広域市との交流は、事前に関係機関で広報し多くの応援者を募った。そのため、参加者の保護者を中心に多くの応援者を得ることができた。交流後は、参加者及び支援者との話し合い、アンケート調査を冊子にまとめ、県内の特別支援学校や関係施設等へ配布した。またホームページ等でも交流についての様子を掲載した。

県内の特別支援学校の参加者には、各校で報告会を依頼し、この交流の意義、自分なりに得たものを発表する機会を設けた。そのため、他の特別支援学校の生徒も「自分も参加したい」という気持ちを抱かせることができた。

台湾のサッカー教室では、参加者のアンケート、ボランティアの振り返り、両地域の関係者の話し合いをまとめ、両地域で共有するようにした。このことで今後の活動に具体的に話し合いが進むと考える。また公益財団法人静岡県障害者スポーツ協会ととして、興味のある県内の障がい者スポーツを行う団体や支援する団体に冊子を配布した。

■ 今後の展開

韓国仁川広域市との交流については、参加者高校生段階ということもあり、生涯学習の基礎作りの大きな事業となる。また参加者固定されないので毎年新たな生徒の参加が期待できると共に、高校生段階の生徒の大きな目標となりやすい。そのためこの事業を本会の一つの柱として継続したい。そのために、理解啓発活動、受益者負担の在り方等再検討していきたい。

台湾のサッカー教室については、参加者と特別支援学校の職員のニーズの高さと成果の大きさから、交流事業への基盤作りとして事業継続を積極的に検討したい。この事業は、両国の多くの団体との協力、信頼関係が必要になるので、この事業

に関するネットワークや組織作りに努め、今年度の助成事業の成果を生かし、中心的役割を担えるようにしたい。